

ヒメオオクワガタ *Dorcus montivagus montivagus* (Lewis)

【選定理由】

山地（ブナ帯）を中心に生息地する大型のクワガタムシで、近年全国的に個体数の減少が見られる。愛知県内では、非常に個体数が少なく、生息基盤が脆弱であるのに加え、近年のクワガタムシブームによりペット業者やマニアの採集圧にさらされている。

【形態】

体長 26～38mm。大型のオスでは大あごを加えると 50mm を越える個体もある。一見オオクワガタに似るが、脚が長く、前胸背板は前方で強く広がり、側縁は弧状となる。また、メスや小型のオスでも上翅にオオクワガタのような縦条は現れない。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根村（旧豊根村）（大平ほか，1980）、設楽町（阿江，1973；山崎，1973）などから記録がある。奥三河地方のおよそ標高 800m 以上の山地に分布する。

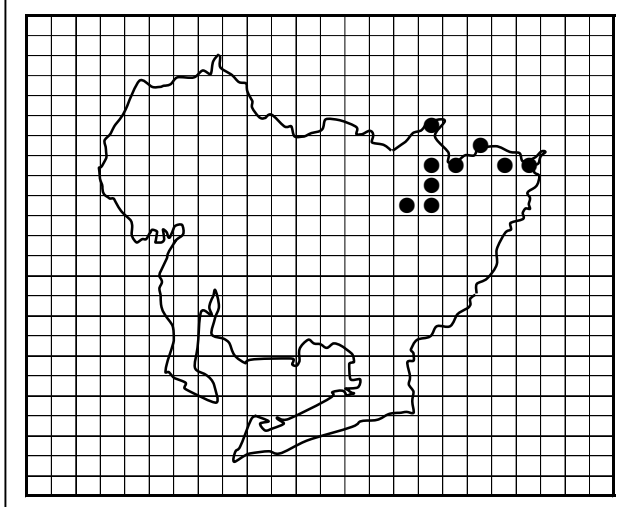
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布。

【世界の分布】

朝鮮半島、中国東北部。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ブナ帯を主な生息域とする。新成虫は秋に羽化し翌年の初夏に出現し、8月中旬から9月にかけて最も多く見られる。ヤナギ類の枝に集まり、樹液を吸う。幼虫は、ブナなどの大木の朽ち木にみられ、幼虫期間は2年ほど。

【現在の生息状況／減少の要因】

生息密度は低く、発見は困難。愛知県は、本来本種の生息域であるブナ林の面積が狭く、もともとそれほど生息密度は高くなかったものと思われる。

減少の原因として、植林等による自然林の減少があげられる。また、近年のクワガタムシ人気の加熱による過度の採集圧、特に幼虫の捕獲を目的とした朽ち木の破壊が影響を与えているものと考えられる。

【保全上の留意点】

生息地であるブナ林の面積を減少させないことが必要である。幼虫が生育するブナの朽ち木には他にも多くの昆虫類が依存しているので、単に本種の保護のためだけでなく、ペット業者やマニアによる朽ち木の破壊は自粛すべきである。

【引用文献】

- 阿江 茂，1973. 愛知県北設楽郡設楽町裏谷のヒメオオクワガタ. 佳香蝶, 25 (97): 101.
大平仁夫・松野更一・山崎隆弘，1980. 愛知県豊根村の動物，鞘翅目: 195-220.
山崎隆弘，1973. 三河地方で採集した珍しい甲虫. 三河の昆虫, 3: 9-11.

【関連文献】

- 佐藤正孝ほか，1990. 愛知県の甲虫. 愛知県の昆虫, (上): 200-477. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)